

## 2013 年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

## 専門論文試験 商法

(60分)

## 受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は1ページのみである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 答えは、横書きとする。
5. 答えは、実線内の番号に従って書き進めること。
6. 答えは、黒ボールペンまたは黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答えは、無効となる。
7. 答えを訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
8. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
9. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

## 専門論文試験 商法

以下の文章を読み、設問 1、設問 2 に答えよ。

### 【事実】

2012年8月1日に、P株式会社(代表取締役A 取締役B,C,D,E)は、会社の保養施設建設のためにQ株式会社(代表取締役B 取締役F,G,H)の保有する土地を2億円で購入した(以下、「本件土地取引」という)。両社において本件土地取引のために必要となる会社法上の手続きは執られた。ところが、本件土地取引から1か月後に土壌汚染が発見され、P株式会社は多額の浄化費用の支出を強いられた。本件土地取引を行うにあたり、P株式会社は事前に専門家に調査を依頼し十分な調査を行っていたが、土壌汚染は容易に見抜けないものであった。浄化費用等を考慮すると、本件土地取引時点における土地の公正な価額は1億円程度であった。

### 〔設問1〕

本件土地取引を行うために、それぞれの会社において、会社法上どのような手続きが必要となるか、説明せよ。

### 〔設問2〕

P社の監査役Xは、本件土地取引により会社が被った損害について、取締役の責任を追究したいと考えているが、それは可能か。